

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2297300028		
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム袋井(東ユニット・西ユニット合同)		
所在地	静岡県袋井市堀越2丁目14-1		
自己評価作成日	平成26年12月1日	評価結果市町村受理日	平成26年12月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2010_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2297300028-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2010_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2297300028-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022</a>
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成26年12月12日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

入居者様の出来る事、出来ない事を見極め、したいこと、出来ることに関しては可能な限り行って頂けるように支援に努めています。日常生活で入居者様が主体となって過ごして頂けるように職員は生活の場としての空気を壊さないように努めていきます。ホーム周辺は目の前に公園が有り、散歩が日課となり運動、気分転換、地域の方とのふれあいの場所となっております。平屋作りの為、各ユニット間の交流を持ちやすく、入居者様には閉塞感を感じさせない作りとなっております。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

袋井ICから車で5分、高架道路を望む閑静な住宅街に建つ事業所です。平屋造りで20メートル以上ある廊下の往来は歩行能力の維持や気分転換に繋がっています。利用者の出来ること出来ないことを把握し“介護する、というより”サポートする、姿勢で自然な役割となり、台所では職員と見まがう程手際よく下ごしらえする姿も視認しました。『心に寄添う 人生に寄添う』と謳う理念の実現をめざし、例えば眠りが浅く落ち着かない利用者の断片的な言葉を紡ぎ合わせて原因を探り、心の拠り所としていた住職との語らいの時があったことを探り当て、再開に涙したエピソードもあります。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームビジョンを朝礼時に唱和しています。	「自分が入るならどんなホームにしたいか」は全職員で考えて作った理念であり、朝礼や会議で唱和しています。コミュニケーションの中でその人の想いを聴き出そうと努める職員の様子に理念の浸透を感じています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	納涼祭、地域の防災訓練に参加して地域との繋がりを深めている。	公園への散歩で挨拶を交わす関係もできており、納涼祭には今年も浴衣を着て出かけ「愛の家だね」という嬉しい声がかかっています。公民館でおこなわれる老人会の『いきいきサロン』へも参加しています。	地域の人に足を運んでもらえる企画が実現することを期待いたします。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にてホームの現状を地域の方にお伝えしているが、地域に対しての広報活動は不十分な状態である。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族様、地域の方をお招きして、取り組みや行事の報告を行っています。	偶数月に定期開催し、市長寿課、地域包括支援センター職員、正副自治会長、民生委員の出席があります。地域行事の詳細や花の見頃、袋井祭で山車が立ち寄る時間帯までお知らせがもらえています。	引き続き家族へも呼びかけ、多様な話し合いとなることを期待いたします。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者に運営推進会議の議事録を提出している。	運営推進会議には行政職員も出向いてくださり、入居が進まない時にもアドバイスがあり助けられています。年に一度の袋井市事業所連絡会にも参加し介護相談員からは書面で報告があります。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム主催の勉強会などで身体拘束をしないケアについて理解を深めるようにしている。玄関の施錠に関しては事務所職員がいる時は開錠している。	目に見える拘束については理解できていますが、「ちょっと待って」は言葉の抑制につながる、何故待たなければならないのかを添えてほしいと伝えています。行動には目的があると受け止め職員の心に余裕ができることで声かけも穏やかになっています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者が事業所内の虐待に関しては注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホーム内での勉強会で学ぶ機会を設けていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には文書の読み合わせを行い、十分な時間をかけて説明を行い同意して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議、面会時の意見、ご家族様アンケートの結果を反映している。	「職員の挨拶がない」「入浴回数を増やしてほしい」とのアンケート結果を会議で周知し、改善に繋がっています。『福来老(ふくろう)通信』には個々の写真と看護師から健康面、担当職員から生活面の記載があり好評です。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議時に意見を聞くようにしているが、話しにくい話題については勤務終了後に個別で聞く。 職員アンケートを実施して意見を聞く機会を設けている。	利用者の安全に配慮した意見も多く、入浴用肘掛付椅子の購入に至っています。職員アンケートでは管理者に対して言葉にしづらかった点においても回答があり、日常のコミュニケーション不足を省みる機会となりました。	ユニットリーダーも位置付けられるとのことですので職員間の連携と定着を期待いたします。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に1回、スタッフの評価を行い、個別面談を実施。勤務状況、環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回の勉強会にてケアについて学ぶ機会がある。ふさわしくない言動が見られたらその場で指導している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームと互いに交流を持つようにして情報交換をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	訪問、面接時にご家族様、ご本人からお話を聞いてアセスメントシートを使用して、安心してサービスを受けられるような関係作りをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居見学时より、ご家族様の要望にも耳を傾けるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要に応じて外部の事業所の紹介をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の家事などを共に行うことを大切にしている。一緒に行うことにより、信頼関係を築けるように取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月1回の通信にて、入居者様の様子を伝えている。また、面会時には最近の様子をお伝えしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	趣味の卓球を続けている人、お寺に行く人、美容院に行く人など通い慣れたところに行き、関係が途絶えないようにしている。	入居間もない人の不安を和らげるため大勢の親戚が来てくれたり、週末だけ自宅に戻る人もいます。草取りを日課にしていた人には事業所周辺をお任せし、心の拠り所となるお寺参りを続ける利用者も居ます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	散歩、行事、体操などにより、入居者様それぞれが出来ることをして頂き、支えあえるような関係作りをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	出来る限り関係を大事にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活の中で入居者様と話をして把握に努めている。	生活歴シートは家族にも協力をお願いし、日々の会話から汲み取った想いは気づきシートに記載してプランに落とし込んでいます。会話が困難な人にも同じ投げかけをして表情やサインを見逃さないようにしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のアセスメント時に、ご本人、ご家族様から情報収集するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日報、介護記録、申し送りノートを活用して、情報の共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	申し送り、日報、介護記録より現状を把握して担当者会議にて意見を収集している。	家族からは面会や電話で近況を伝え要望を聴いています。気づきシートや介護記録等に基づきユニット会議で意見を集約して計画作成しています。状態変化がない場合は3ヶ月ごとにモニタリングをおこなっています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送り、日報を活用して情報共有を行い、介護計画の見直しに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	それぞれの状況に応じて個別サービスを実施して柔軟な支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の公園に散歩に出かけて、季節感に触れて頂いている。また、飲食店なども歩いて数分の場所にあり、活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診医との良好な関係の下、ご家族様の協力を得ながら健康管理に努めている。	月に一度往診があるためほとんどが協力医に変更しています。内科以外は今までの医療機関を継続しており、受診は必要に応じて職員が同行しています。看護師は24時間対応で指示を仰ぐことができます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療面に関しては看護師に相談し、状況に応じては受診等に繋げていく。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	その都度、医療関係者との相談に努めている。往診医との連携をとり、検査、予防接種等を実施している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化については入居時に説明、同意して頂いている。変化があった時にはご家族様との話し合いを行い、今後の方針を決めている。	十分な医療体制もないため、積極的な看取りはおこなっていません。終末期については契約の段階ではまだわからないという家族が多く、食事摂取が困難になった時点での相談としています。受入れ体制を整え出来る限りの支援をしていく考えです。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時の連絡体制についてはマニュアルにて周知を図っているが、訓練に関しては定期的に行っていない状態である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の防災訓練に職員、入居者様と一緒に参加している。運営推進会議にて地域の代表の方に災害時は協力を頂けるように伝えている。	年2回実施し、通報・消火訓練を体験しています。消防署の指導で避難経路の整理や消火器の置き場所を変更しました。運営推進会議では地域へ協力を呼びかけ「何かあれば助けに来るよ」との声がもらえています。	車椅子の人の避難や夜間想定訓練の実施を期待いたします。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	勉強会を行い、意識を高め、場合によっては個別指導をしている。	『プライバシーと権利擁護』についての勉強会をおこなっています。自室に鍵をかける人の意思を尊重し、また全体会議ではトイレや入浴の介助場面を具体的に振り返ることで羞恥心に配慮しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員から積極的にコミュニケーションをとり、本人の思いをくみ取れるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人1人の希望に完全に添えることは難しく、ホームの予定に合わせて頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類等、ご自分で選択出来る方には自由に選んで頂いている。化粧、髭剃り、整髪などの身だしなみの支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みに関しては可能な限り、個別に配慮させて頂いている。食事の下ごしらえ等のお手伝いをして頂いている。	管理栄養士による献立に基づいた材料を利用者と買い出しに外出し、昼夜調理担当職員が作っています。職員と見まがうほどの手つきで調理台に立つ人も視認しました。誕生会では手作りケーキでお祝しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表を活用・確認・把握して支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、全員の口腔ケアは実施出来ていない。 夕食後に全員実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用して状態の把握を行っている。	チェック表をもとにタイミングを見計らって誘っています。失敗してしまった場合でもプライドを傷つけず周囲に気づかれない対応をしています。排便は薬に頼らず好きな飲み物で水分をとったりヨーグルトで工夫しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や体を動かす機会を設けて、便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には午前入浴としているが、可能な限り希望に沿って、回数、順番等に配慮している。	週2回、一日3人を目安にしています。一人ひとりの好みに合った洗いたオルを準備し、散歩で汗をかいた後に声をかけたり、「お金がかかる」と気に病む人には入浴券を手渡して心配をなくしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の生活習慣に合わせて入室時間、起床時間に関して考慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	新しい薬の使用開始、切り替え時も含めて症状の変化や確認に努めている。 往診時には、薬剤師が同席している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者個々の状況に応じた役割や楽しみを提供している。各担当者を設けて、職員間でアイデアを出し合い支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩は天候を見ながら日課としている。外出に関しては出来る限り実施している。	公園には緑もあり交流の場として車椅子の人も出かけています。外出はユニットごとに企画し、近くに開店した焼き菓子店や映画館、遠出では浜名湖ガーデンパークや花鳥園まで足を伸ばし、桜、菜の花、紫陽花、秋桜、紅葉といった花の名所も訪れています。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所の金庫にて管理している。外出時など必要時にお金を所持出来るように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望者には電話、手紙でやりとりが出来るように支援している。家族への年賀状の作成をしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	記録物などの施設色が出る物にかんしては入居者様の目が届かない場所に置き、生活の場所としての雰囲気作りを行っている。	20メートル以上ある長い廊下は自然なりハビリを実現させています。生活空間であることから、職員の記録場所は利用者の視界に入らない処でとし、テレビを仲良く見るためソファの位置を決めています。次亜塩素酸を使った清掃で感染症予防に努めています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを配置して、入居者様同士が交流を持てる居場所を提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様の協力にて、家具など馴染みの物を持ってきて頂いている。家具の配置場所にも考慮して居心地の良い居室になるように工夫している	ベッドの向きが自宅と同じになるよう配置しています。暗くしないと寝られない人はリスク面からセンサー足元灯を準備しています。携帯電話、経本と数珠、大勢の家族の写真に見守られた安らぎある部屋もありました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様が、自分の力を使って生活出来るようにホーム内のいろんな場所に手すりがついている。		